

2023 年度シーズン開幕！ ～男子 W 杯から女子 W 杯へ

== ハーフ タイム ==
東京 F A 審判委員会
第 60 号 (2023 年 5 月)

1. 審判トレーニングセンター開幕
2. 昇級挨拶
3. 勇退挨拶
4. フットボールカンファレンス報告
5. 全国大会審判報告

■審判トレーニングセンター開幕！

『フィジカルが強い！走れ東京レフェリー！』を目指して (審判統括部会 S2 級 Part 佐野元康)

1・2 級審判員、3 級アクティブ審判員、女子審判員を対象とした、「フィジカルトレセン」において、2022 年度は、Yo-Yo Intermittent Recovery Test (※1) を中心にフィジカル面の強化を図ってきましたが、今年度は Yo-Yo Test に加えて、クーパー走 (※2) も実施し、『フィジカルが強い、走れ東京レフェリー！』をスローガンに、フィジカル面の強化を図ってトレーニングを実施しております。ただ走るだけが審判トレーニングではなく、審判員専属のフィジカルコーチを中心に、コアトレーニングやストレッチのメニューを取り組み、第 1 週目の木曜日の夜を中心に駒沢開催でのフィジカルトレセンを今年度も開催しております。



(駒沢でのフィジカルトレセンの様子)

※1 シグナル音に合わせて 20m の往復走を繰り返す、シャトルラン形式の持久力測定テストです。レベルが上がるにつれてシグナル音の間隔が短くなっていき、音に遅れることなくゴールできた回数で評価します。音に遅れて、ゴールすることが出来なくても、休憩を挟んで途中から走る等、参加審判員のその日のコンディションに合わせて各自調整して取り組んでおります。



※2 12 分間の走行距離から体力の目安を評価します。

参加審判員のその日のコンディションの中での MAX の走行距離を目指して、心肺機能だけでなく、気持ちの面でも強化できるよう取り組んでおります。

東京の利便性を活かし、審判のカテゴリに関係なく集まってフィジカルトレーニングを行い、審判員同士のコミュニケーションも大切に、東京都が主催する審判割り当て中心に選手のために我々審判員が良いパフォーマンスが発揮できるよう、今年度もトレーニングを楽しんで取り組んでいきます！

■昇級挨拶 《サッカー2 級審判員》

2022 年度秋の関東 2 級昇級審査が行われ、新たに 5 名のサッカー 2 級審判員が誕生しました。昇級されました審判員の喜びの声をお届けします。



(吉川 快都氏)

この度、2022 年度秋に昇級いたしました、吉川快都(きっかわかいと)と申します。これまで、東京都サッカー協会の皆様を始め、インストラクター、審判活動を始めて間も無い中、ご指導を頂いた中体連の恩師の先生、役員の先生方、そして何より審判活動を温かく見守っていただいた家族、多くの方からパワーをもらい、そしてご指導して頂きました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。改めて、「初心」を忘れず基本に忠実に今後のサッカー発展の為に貢献して行きたいと思っております。今後ともご指導宜しくお願い致します。



(倉持 秀人氏)

この度、2022 年度秋に昇級いたしました倉持秀人と申します。アカデミーをはじめとする審判員の皆様とご指導を賜りました指導者の皆様はこの場をお借りして感謝申し上げます。

15 歳の時に審判活動を始めた際には 2 級審判員は雲の上の存在でした。選手活動を続けながら割当てをいただき、その存在はより近いものとなりました。昇級試験のご連絡を頂いたときの喜びは忘れることはありません。ここをゴールとするのではなく、お世話になっている北区、東京都のサッカーの更なる発展のために 2 級審判員としての「自覚・責任」を常に意識し活動して参ります。至らぬ点が多くありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

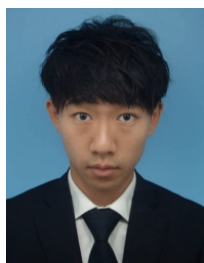


(齋藤 まさみ氏)

2022 年秋に昇級させていただきました齋藤まさみと申します。

先ず初めに、ご指導くださった皆さま、共に学び励んだ仲間達、関わっていただいた皆さまにこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

皆さまからは審判活動のスキルだけではなく、多角的な視点を持つことの重要性、気配りや協調性等々、年代や性別を超え人として大切なことまでも教わっていると実感しております。人として成長することで、逆にまた、審判活動に良い形で還元することができ相乗効果を得られると思いますので、今まで以上に気持ちを引き締めて今後の審判活動を邁進いたしたいと思います。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

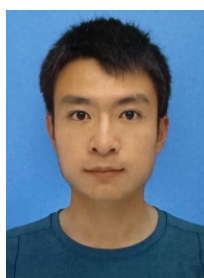


(佐々木 佑吏氏)

この度、2022 年度秋に昇級いたしました、佐々木佑吏と申します。

まず初めに、東京都サッカー協会審判委員会の皆様をはじめ、審判仲間、家族、友人、そして全てのサッカーファミリーの皆様に感謝申し上げます。審判を始めて約 10 年に差し掛かりますが、私がこのように 2 級審判員に昇級することができたのは、皆様の多大なるご支援、お力添えのおかげでございます。

今後も目の前の 1 試合を大切に、準備や振り返りにも全力で取り組んで参ります。また常にオープンマインドな姿勢で、感謝の気持ちを忘れず、サッカーそのものに対しても真摯に向き合っ



(劉 岩氏)

この度、2022 年秋に昇級いたしました劉岩（リュウガン）と申します。

今回昇級できたことは、協会の皆様をはじめ、インストラクターの皆様や同じ審判員の先輩方や東京アカデミーまた同年代の方々のお陰だと感じており、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。2 級審判員となり、最終目標ではないため、相変わらず「サッカーへの感謝」と「選手のために」の思いを持ち、さらに自覚やスキルの向上や成長が必要です。これからも、2 級審判員として責任感を持って活動し、現状に満足せず、1 試合 1 試合を大切にしながら、少しでも上のカテゴリーを目指し、活動していきたいと考えています。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

《 サッカー2 級インストラクター 》

2022 年度 新たに 2 名のサッカー2 級審判インストラクターが誕生しました。各種審査を経て合格したお二人の喜びの声をお届けします。



(比留間 康洋氏)

この度、サッカー2 級審判インストラクターに昇級しました比留間です。受験の際に推薦してくださった蒲澤委員長はじめ審判委員会の皆様、ご指導いただいた審判統括部・指導者チームの皆様、そして共に切磋琢磨してきた審判員の皆様、並びにインストラクター仲間の皆様にこの場を借りて深く感謝の意をお伝え申し上げます。今後も研鑽を積み、多くの審判員の皆さん、そしてサッカーに関わる多くの方々に貢献ができるよう、より一層精進して参ります。引き続きよろしくお願いいたします。



(吉川 宏氏)

この度、サッカーインストラクター2 級に昇級させていただきました吉川宏です。

多くの諸先輩の方々からのご指導、ご鞭撻、特に「指導者チーム」の方々より「特訓」を受けて合格することができました。あらためて、御礼申し上げます。

審判員育成・強化が我々の使命ですが、それには自身の研鑽が必要不可欠と考えます。また、その研鑽を欠かすことなく継続することで審判員の皆様の成長が実現できると信じています。サッカーもコロナ前に戻りつつあります。活気ある好試合の実現に向けて、審判員、指導者ともに勇往邁進していきましょう。

《 フットサル 2 級審判員 》

2022 年度関東 2 級昇級審査が行われ、新たに 1 名のフットサル 2 級審判員が誕生しました。



(小谷 晏佑武氏)

この度、2 級に昇級させて頂きました小谷晏佑武（こたにあゆむ）と申します。昇級にあたりフットサル界の皆様にご指導いただきました事御礼申し上げます。特にレフェリーの先輩方には試合を通して、たくさんの教えを頂きました。判定の見極め方については非常に奥が深く、その精度を求められると改めて気付かされました。私は再度、フットサルの真の楽しさを感じました。

フットサルというスポーツならではのフェアプレー精神を競技者がピッチで存分に表現してもらいたいと思います。自身のレフェリングの精度をより高めて行かなければなりません。このことにより競技者と観ている方々がよりフットサルのスポーツ精神に気づくと信じて笛を吹きたいと思います。1 級を目指し努力して行くので、これからもご指導の程よろしく願いいたします。

《 フットサル 2 級インストラクター 》 2022 年度 篠原達哉氏と新妻久美氏の 2 名のフットサル 2 級審判インストラクターが誕生しました。代表して篠原氏の喜びの声をお届けします。



(篠原 達哉氏)

この度、フットサル 2 級審判インストラクターに昇級しました篠原達哉と申します。小学校の頃からサッカー・フットサルでお世話になったすべての方々に恩返しするために競技に関わり続けたいと思い、取り組んできました。

フットサル・ビーチサッカーの明るい未来をつくりあげるのは、私たち審判員一人ひとりの前向きで主体的な思いや行動も必要だと思います。フットサル・ビーチサッカー審判に少しでもご興味のある方は是非チャレンジいただきたいです。今後ともよろしく願いいたします。

■勇退挨拶 《 サッカー・フットサル 2 級 》

今年度をもってサッカー 2 級審判員から 14 名、フットサル 2 級審判員から 4 名の審判員が 2 級審判員をご勇退されました。ご勇退されました審判員の皆様のお名前を以下ご紹介致します。（敬称略）

★サッカー 足立正文、飯田広樹、蔭地野稔、加園知樹、後藤真由美、田代志津子、中山宗太郎、延本泰一
早川隆二、平山元輝、福島和哉、村上泰一、守屋俊秀、李日出

☆フットサル 川澄正史、北上恒保、後藤真由美、李日出

サッカーとフットサルの 2 足の草鞋で 2 級審判員として現役を走り続けて下さった、李日出審判員と、後藤真由美審判員に勇退者を代表してご挨拶を頂きました。長年の審判活動に感謝いたします。



(李 日出氏)

この度、2022 年度を以って、サッカー 2 級審判員（同フットサル）を退くことといたしました。サッカー 2 級に昇級時、ハーフタイムに寄稿させて頂き、また今回もハーフタイムに寄稿させて頂くことを光栄に思います。振り返りますと、様々なことがあったことを思い出します。

2 級昇級時、当時の長坂委員長を始めとした委員会役員の方々より、日本青年館でお祝いの席を設けて頂き、その時のしゃぶしゃぶが美味しかったことや、その席で記念に頂いた野田製のホイッスルは今でも愛用しております。本当に吹きやすいホイッスルです。

J リーグ・F リーグにもわずかですが関わったことや、国立競技場で関東リーグの主審を任されたことも、大変ありがたく嬉しく思い出されます。

普段の試合においては、なかなか納得の行くレフェリングができなく、殆ど反省ばかりでした。そんな中でも大学生の試合で、試合後の更衣室で「うまいですね。」と言われた時や、とある

試合の終了直後に負けたチームのキャプテンから

「納得行く判定でした、またお願いします。」と言われた時は、「良かったー」、と思いました。

こういう試合は多くはないですが、より一生懸命にやらなければと励みになりました。末尾になりますが、2 級審判をここまで続けられたのも、協会・指導部・審判仲間の皆様のおかげと思っています。本当に感謝申し上げます。

最後に、皆様の今後の更なるご活躍を祈念いたします。長い間本当にありがとうございました。



(フットサルイベントでの写真)



(後藤 真由美氏)

このたび、古傷の悪化でトレーニングをすることが出来ず、フィットネステストをクリアすることが困難と判断し3級降級を決意しました。

サッカー・フットサル共に3級アクティブ審判員となってから土日祝日はもちろん平日開催の試合があれば平日も審判依頼を受けさせて頂いて、サッカー審判としては「国体・インターハイ・なでしこリーグ」、フットサル審判では全国大会に、また芸能人フットサル大会でメディアにもでることがありました。他にも元国際主審、岡田正義氏のご紹介で一緒にDVDの撮影に参加させて頂きました。「専業主婦が女性審判員として活躍している」とNHKラジオ番組にも出演させて頂きました。

サッカー経験も学歴も無い専業主婦が子供のチーム帯同審判をするために審判4級を取得してから、審判員になっていなければ経験する事が出来ないことを経験させて頂きました。

今後は、女性審判員の普及・育成に携わっていきたいと思います。

最後に、今までご指導していただいた皆様へ、様々なところで携わっていただいた全ての皆さまへ改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



(旧国立競技場での写真)

■フットボールカンファレンス報告

～「東京フットボールカンファレンス」に参加して～

(審判委員会 小池昌紀)

2023年1月28日、東京FA主催「東京フットボールカンファレンス2023」が日大文理 百周年記念館において開催された。これは、技術委員会が中心となって定期的に開催している事業で、審判委員会は初参加。「東京から世界へ」というテーマに対して、審判委員会は「何をすればいいのか?」。話は1年前にまでさかのぼる…。

審判委員会に「東京フットボールカンファレンス」への参加オファーがあったという話を聞いたのは2021年12月。技術委員会が行う催し物の中で、「審判委員会は何を?」と困惑したが、迷っていても進まないの、カンファレンスのためのチームをつくって対応することとなった。まずは「何を伝えるか?」だ。チーム内で議論とリサーチを重ねた結果、東京独自の試み、女性活躍、エイジレス&ジェンダーレスといったキーワードがあがり、これらを30年以上継続している審判員トレーニングセンターを軸に活動内容と人物紹介をからめて説明するのが良いのではないか、ということでもまとまった。

では「どう伝えるか?」だ。せっかくの与えられた機会なので、一般的な審判界へのネガティブなイメージ＝「堅い、閉鎖的、つまらない…etc.」を払拭できないかと考えた結果、よせばいいのに【ジャッジリプレイ】をモチーフにした小芝居を思いついてしまった。

複数の演者が舞台にあがり、映像と軽快なトーク(セリフ)と動きを繰り返しながら審判委員会の取り組みを伝えるという、いわば寸劇だ。でもまあよ。僕たちは普通の社会人でただの審判員。役者でも芸人でもない。芝居などはまったくの素人。寸劇なんてできるのだろうか…。

2022年の夏、台本が完成した。登場人物は、司会者(池尻健)、現役審判員(高橋早織)、大御所(佐野元康)、芸人(小池昌紀)、新人アナウンサー(青木亮)の5役。

これをみなで担当する。つまり、チーム全員が舞台上がって、大勢の前で寸劇を行うのだ。最初の試練は、セリフ覚えと稽古だった。英単語も漢字も覚えられないのにセリフなんてどうやって覚えればいいのか。

劇は小学校の学芸会以来やったことがない。稽古なんてどうやればいいのか。試練は続く。全員が集まっても稽古がなかなかできない。みな平日は社会人で、週末は審判員の割り当てが最優先。スケジュールを調整して、Zoomで台本



(カンファレンスでの寸劇)

読みをしたが盛り上がらない。集まってもみたもののうまく進められない。セリフは覚えられない。動きは決められない。不安は隠せない。後戻りはできない。ないないづくしが先に進むしかない。2023年の冬。それでも本番はやってくる。ないないなりに最善は尽くした。あとは天に運をまかせるしかない。(本番の様子は写真からの想像にお任せする)

この「東京フットボールカンファレンス」を担当して、良かったと思ったことが3つあった。

1つ目は、審判委員会の取り組みを公に発信できたこと。審判委員会はいろいろな取り組みを行っているのに、それを告知する機会が少ない。

2つ目は、「やろうと思えば何でもできるのだな」ということが再認識できた。芝居においての素人集団が、大勢の前で大量のセリフをしゃべって掛け合いを行うなんて、誰が想像できただろう。

3つ目は、チームの仲間たちの知られざる一面に出会えたこと。審判員は現場での審判活動以外で一緒に取り組みを行うことは少ない。それなのに、今回は稽古を通じての濃密な時間の中で、皆のいろいろな表情に出会うことができた。貴重だった。2023年の春のこの「ハーフタイム」を最後に、審判委員会の「東京フットボールカンファレンス 2023」は終わりを告げる。もしまた参加オファーがあったならば、「この小芝居が認められたのだな」と前向きにとらえることとしよう。



(掛け合い中の小池氏)

■全国大会審判報告

～第37回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 審判員として参加して～

2022年8月14日(日)～19日(金)@北海道帯広市 (サッカー2級審判員 青木 亮)

このハーフタイムをいつも、編集作業を担当させていただいております、総務部会 青木と申します。今回は、編集者側ではなく、寄稿者となりこの報告書を作成させていただきます。

2022年5月下旬に、標記大会へのオーバー35(歳)審判員としてアポイントをいただき、関東、そして東京のオーバー35の代表として全国大会の舞台へと参加させていただきました。

大会前に事前に3回のZoomを用いたオンラインミーティングを行い、1回目は大会要綱等の確認。2回目は『一緒にいい試合を作ろう!』をテーマに全国から集まった審判員でグループディスカッションを行いました。3回目は『主審と副審の協力』をテーマに映像を用いてのグループディスカッションを行い、それぞれのディスカッションで次のことを共有しました。

【主審】・副審に何をサポートしてもらいたいのか、自分の意思を伝えておく。

- ・自分の判定に自信がないときは、副審の意見を求める(重大事象の場合は遠慮しない)

【副審】・何かが起きたら、まずは、主審のポジションと視野を確認

- ・決して前に出過ぎない、出しゃばらない
- ・必要なときに、適度なサポートができるよう、常に事象を確認する

上記の事柄を確認し「主審の判断」+「副審(4th)サポート」=「素晴らしいチームワーク」

これらにより、『一緒にいい試合を作ろう!』という大会成功への意識が同じ方向に向かいました。

大会期間中の4日間において、天候は晴天ばかりではなく、雨風強く寒い日も経験し北海道の大自然を満喫しながら、主審3試合、副審2試合、第4の審判を1試合と、合計6試合を担当させていただきました。

- ・3日連続主審という割当をいただき、【疲労感】は隠せなかったですが、それ以上に【達成感】がありました。
- ・様々なカテゴリーの審判員、所属地域も様々で普段顔を合わすことない審判員、インストラクターとの交流により、引き出しを増やすことだけでなく、考え方の共有や各地域で取り組んでいる活動なども意見交換することができました。

- ・どんな試合においても、しっかり状況を整理して‘見ること’、‘判断すること’、の大切さを改めて感じました。

- ・1級インストラクターの方々の試合後の振り返りの、シンプル、ショート、クリアの振り返り内容は、とても参考になることばかりで、指導者として今後進むことを考えた際には取り入れていきたいと思いました。

最後になりますが、『全国大会』という素晴らしい環境に審判派遣していただき、誠にありがとうございました。これらの経験を、‘経験’だけで終わらせず、審判員としてだけでなく、審判指導者としての道でも二刀流目指して活かしていければと思います。



(大会派遣された東京都の審判員)

左から青木亮氏、山本真理氏、新妻久美氏、井口朋恵氏

【編集後記】2022年冬に開催されました、FIFA ワールドカップカタール 2022 の熱狂から早くも半年が過ぎようとしております。今年は男子に続けとばかり、FIFA 女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド 2023 が夏に行われます。東京都出身の山下良美氏と坊蘭真琴氏が審判団に選出されました。なでしこジャパンの活躍だけでなく、山下主審、坊蘭副審の活躍にも期待しましょう!